

2020 年度多気町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町の農業は旧町村（相可、佐奈、津田、外城田、勢和）の区域により農業の位置づけが異なるが、水田における土地利用型農業を活性化させるため、実需者のニーズに対応して麦・大豆の品質向上を目指し、生産・品質管理システムの整備を図りながら産地体制を強化する。

また、畜産農家との連携による飼料作物の供給と養鶏業者との連携による飼料用米の供給安定を図る。

なお、食料自給力・自給率向上のため、水田利用率の向上を図り、麦の裏作大豆のほか、多気町が原産地である伊勢いもや奨励作物である白ネギをはじめとする他の野菜類の積極的な推進と、担い手には、規模拡大による機械の高度利用を推進し経営の安定を図る。

2 作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

需要に応じた良質米の計画的な生産と品質バランスの適正化や新しい栽培技術の導入を進め、生産から販売までに至るコストの削減に努める。

（２）非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米の生産を推進し、養鶏業者・飼料業者等と連携を図り、安定的な供給を推進する。また、飼料米収穫あとのわら利用として耕畜連携を推進する。

イ 米粉用米

米粉用米の生産と販路拡大などに努め、安定的な供給を推進する。

ウ 新市場開拓用米

新規需要米のうち新市場開拓米について、国内の主食用米需要量が毎年減少していく中、内外の米の新市場の開拓を図る取り組みを推進する。

エ WCS 用稲

WCS 用稲の生産を推進し、乳牛業者と連携を図る

オ 加工用米

加工用米の生産拡大を図り、転換作物の位置づけを確立する

（３）麦、大豆、飼料作物

【麦】自給率の向上に向けて適地適作を推進するとともに排水路の整備・暗渠排水対策を進め、生産性の向上、低コスト化を図る。品種は地域の奨励品種である「ニシノカオリ」の産地化に取り組む。また、ブロックローテーション方式の水田土地利用を進め、麦あと大豆・麦あと野菜等を積極的に推進し、土地利用の高度化を図る。また、麦と飼料用米等の組み合わせによる麦の二毛作も推進する。

【大豆】自給率の向上に向けて、排水対策の徹底を図る一方、経営体、集落営農組織による、麦と大豆の二毛作体系によるブロックローテーション方式の確立により、作付面積を拡大していく。また、需要者ニーズに対応した高タンパク質品種「フクユタカ」を推進し、土づくり（石灰、堆肥等施用）、適正な種子更新、適期播種、新技術の導入（摘心機など）や、種子消毒による病虫害防除等の管理を徹底し、収量の向上と品質向上を図る。さらに、種子調湿による湿害対策、狭畦無中耕播種や中耕培土による生育促進や高度な肥培管理（肥効調整型肥料、追肥施用、葉面散布）により、収量の向上を図る。

【飼料作物】自給率の向上に向けて適地適作を推進するとともに、飼料作物と飼料用米の組み合わせによる二毛作を積極的に推進し、土地利用の高度化を図る。また、耕畜連携（資源循環）による堆肥の散布で地力増大を図り、安定的な収穫につなげる。

（４）そば、なたね

畑作物であるそば、なたねを作付ける販売農家の生産と販路拡大などに努める

（５）高収益作物（園芸作物等）

現在栽培されている白菜、キャベツ等の露地野菜を中心として、麦あと水田を利用した二毛作野菜を推進し、土地利用の高度化を図る。また、トマトや苺等の施設野菜についても、適正な規模拡大を推進する。その他の野菜・花き・果樹など、多品目少量作物についても観光直売所等で需要があり、地場産野菜の生産を推進する。

主に津田・丹生地区で生産されている伊勢いもは、多気町が原産地である伝統野菜だが、近年生産量が減少しており後継者育成研修会の実施や種芋の供給事業などの推進対策に積極的に取り組む。また、収益性を向上させるため、種芋優良化事業で優良品種の選別を進め秀品率を高めるとともに、取組生産者を増やす必要がある。

白ネギについては、統一した栽培方法により、まとまった規模での栽培が実施されるよう取り組み、GAPの導入などにより安心安全な栽培により消費者及び実需者のニーズに応えることが出来るように計画的・安定的な生産体制を整備していく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	636.5	636.5	636.5
飼料用米	35.5	36.0	36.0
米粉用米	0.09	0.1	0.1
新市場開拓用米	0.0	0.1	0.1
WCS 用稲	1.2	2.0	2.0
加工用米	5.1	7.0	7.0
麦	203.5	205.0	205.0
大豆	166.9	175.0	175.0
飼料作物	5.6	7.0	7.0
そば	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物			
野菜	38.0	39.3	39.3
・伊勢いも	10.2	10.5	10.5
・白ネギ	1.6	2.0	2.0
・野菜等(基幹)	15.6	17.5	17.5
・野菜(二毛作)	10.6	9.3	9.3

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	
				前年度（実績）	目標値
1	伊勢いも	高収益作物（奨励作物）の作付支援	作付面積	(2019 年度) 10.2ha	(2020 年度) 10.5ha
1	白ネギ	高収益作物（奨励作物）の作付支援	作付面積	(2019 年度) 1.7ha	(2020 年度) 2.0ha
2	野菜（基幹）	高収益作物の作付支援	作付面積	(2019 年度) 15.2ha	(2020 年度) 17.0ha
2	花き（基幹）	高収益作物の作付支援	作付面積	(2019 年度) 0.07ha	(2020 年度) 0.1ha
2	果樹（苗木）（基幹）	高収益作物の作付支援	作付面積	(2019 年度) 0.2ha	(2020 年度) 0.40ha
3	戦略作物跡野菜	高収益作物の作付支援（二毛作）	作付面積	(2019 年度) 10.6ha	(2020 年度) 9.3ha
4	小麦（二毛作）	農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組（小麦__二毛作）	作付面積	(2019 年度) 203.5ha	(2020 年度) 191.0ha
			うち二毛作	(2019 年度) 1.9ha	(2020 年度) 0.3ha
5	大豆（二毛作）	農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組（大豆__二毛作）	作付面積	(2019 年度) 166.9ha	(2020 年度) 175.0ha
			うち二毛作	(2019 年度) 165.4ha	(2020 年度) 170.0ha
			単収向上	単収 67kg/10a	単収 105kg/10a
6	飼料作物（二毛作）	農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組（飼料作物__二毛作）	作付面積	(2019 年度) 5.6ha	(2020 年度) 6.7ha
			うち二毛作	(2019 年度) 4.1ha	(2020 年度) 5.3ha
7	飼料用米（耕畜連携）	農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組（わら利用（耕畜連携））	作付面積	(2019 年度) 35.5ha	(2020 年度) 33.0ha
			うちわら利用	(2019 年度) 13.6ha	(2020 年度) 15.0ha
8	飼料作物（耕畜連携）	農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組（資源循環（耕畜連携））	作付面積	(2019 年度) 5.6ha	(2020 年度) 6.8ha
			うち資源循環	(2019 年度) 0.0ha	(2020 年度) 0.3ha
9	飼料用米	複数年契約加算	作付面積	(2019 年度) 35.5ha	(2020 年度) 33.0ha
			数量	(2019 年度) 178t	(2020 年度) 160t
			うち複数年契約	(2019 年度) - ha	(2020 年度) 26.4ha
				(2019 年度) - t	(2020 年度) 128t
9	米粉用米	複数年契約加算	作付面積	(2019 年度) 0.09ha	(2020 年度) 0.2ha
			数量	(2019 年度) 0.4t	(2020 年度) 1t
			うち複数年契約	(2019 年度) - ha	(2020 年度) 0.2ha
				(2019 年度) - t	(2020 年度) 1t
10	新市場開拓米（基幹作のみ）	新市場開拓米の取組助成	取組面積	(2019 年度) 0.0ha	(2020 年度) 0.1ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり